「日々の理科」（第 4444 号） 2026,10,10

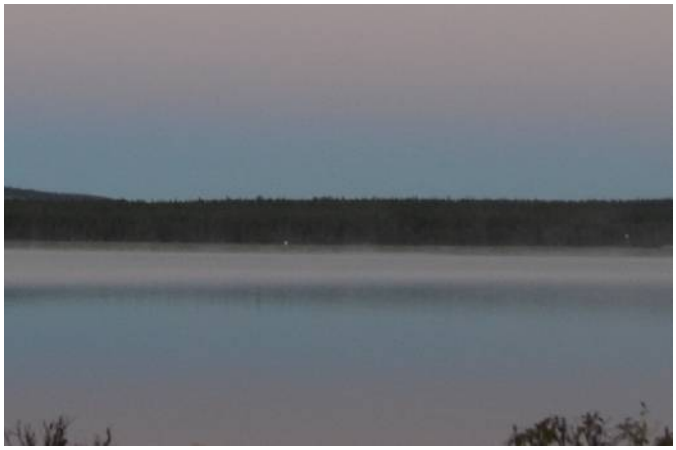
「秋の北極圏旅行記（22)」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中　千尋　Chihiro Tanaka



バンドラヘム（コテージ）の窓からは、線路を挟んで湖が見えます。この湖はさまざまな表情を見せます。この朝は、湖面が霧に覆われていました



空に下の方に見えるうす桃色の帯を「ヴィーナス・バンド」、その下の来い色の帯を「地球影」といいます。太陽の反対側の方位に見える、大気光学現象の一つです。日本でも見えますが、このあたりは、秋の太陽高度が低いので、この空の色が長時間続きます。



対岸の森も霧にけむって、実に美しい景観でした。オーロラが見えなくても、被写体になる風景にはいくらでも出会えます。



太陽が昇って気温が上がってくると、霧もはれてきます。この一瞬も、部屋の窓から見えるところが素晴らしいです。



この湖（ポルユス・セーレット）には遊覧船はありませんが、時々釣りの人のモーターボートは通ります。中には「フィスク・ヘリ」というヘリコプターをチャーターして、山奥の釣りポイントに行く人もいます。



この朝は風もなく、鏡のような湖面だったので、ボートの美しい波紋がいつまでも続いていました。



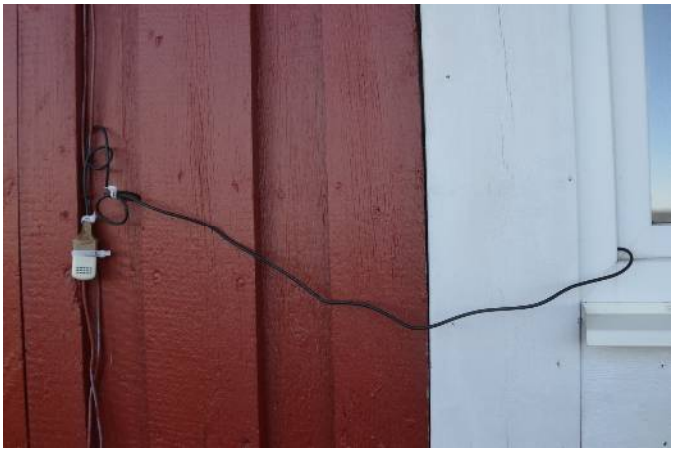
今回の渡航目的の一つが、オーロラ観測カメラのメンテナンスです。コテージの先にある「ポルユス駅舎」と「古い貨車」の中に、合計５台のオーロラ観測カメラが設置されています。最初に設置したのは 2004 年 8 月でした。その後何度かカメラや周辺機器を交換しています。



見えにくい写真ですが、これが駅舎事務室に設置したデジタル一眼レフカメラです。日本から遠隔操作でオーロラの撮影ができる仕組みです。



これが、設置後に最初に撮影されたオーロラです。柵は駅のホーム、右に見えるのが「古い貨車」です。まさに「世界一オーロラがよく見える駅」です。



今回は故障していた「気温センサー」も再設置しました。このあたりは冬は氷点下 40℃近くまで下がります。気温だけでなく湿度の観測も可能です。



これが４台のカメラを設置してある「古い貨車」です。駅の引き込み線（側線）の上にある貨車ですが、非常に重く頑丈なので、揺れません。手前のデッキのある部屋は、もともと鉄道作業員の寝台室だったようです。そこにカメラが４台設置してあります。



カメラは NR１～NR5 まであります。NR というのは「Norrsken（ノルシェン）」の略で、スウェーデン語の「オーロラ」の意味です。写真のカメラは「NR5 カメラ」で東向きに設置したデジタル一眼レフです。